

# 宝本エピソード

鹿児島県立図書館 企画展示「宝本エピソード展」より

展示期間：平成26年10月22日（水）～11月21日（金）

募集期間：平成26年6月13日（金）  
～平成26年9月4日（日）

募集対象：県民一般（幼稚園、学校、公立図書館を通じて募集）



（一般応募の部より）

【エピソード】 



何より車が大好きな息子。寝ているときは、いつも枕元にミニカーが置いてありました。この本を図書館で見つけて以来、何度も何度もこの本を借り、ついに購入してしまいました。「バルン、バルン」「バル バル バル」と楽しい音に満足気な表情を浮かべ、私の読む声に聴き入っていました。愛らしい表情のバルンくんに、私も息子もとても大切な時間を与えてもらいました。

書名 バルンくん  
著者名 こもりまこと/作  
出版社名 福音館書店

【エピソード】 



7、8年前のことですが、入院した祖母がお正月を病院で過ごすことになった時、「なんだかおもしろい本だな。」と見つけて祖母に持っていった本です。視力が弱くなっていた祖母でも読めて笑える本だったので、何度も一緒に読みました。何年か経って祖母が寝たきりになってからは、私が読んで聞かせました。更に数年して祖母は亡くなりましたが、私に赤ちゃんが生まれたので、思い出深いこの本を一番にプレゼントし、読んであげました。赤ちゃんながら「招き猫」の話を気に入ってくれて、会ったことのない私の祖母と息子がつながった・・・と感動した一冊です。

書名 ばんぷくりん鶴の巻  
著者名 宮部みゆき/文  
黒鉄ヒロシ/絵  
出版社名 P H P 研究所

【エピソード】 



息子が4歳と小学校1年生の時、北九州から奄美へ転勤の為、引っ越すことになり、お兄ちゃんの担任の先生からプレゼントしていただいた本です。話の内容が新しい友達をつくる子どもたちと重なり、家族皆で何度も何度も読んで、「お互いの良いところを認めて、仲よく生活していこうね。」と話したのを思い出します。今でも、時々開いては、お互いを尊重し合う物語に勇気をもらいます。

書名 いぬうえくんがやってきた  
著者名 きたやまようこ/作  
出版社名 あかね書房

姉



弟

書名 はらぺこあおむし  
著者名 エリック・カール/作・絵  
もりひさし/訳  
出版社名 偕成社

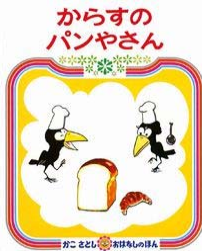
【エピソード】



今見ると懐かしい一冊です。小さい頃、「ペコーむし！」と覚えていたこの絵本は、いつの間にかわが家の宝本でした。絵にたくさんの色が使われていて、鮮やかで、本をめくると、ときどき穴があるのが面白くてよく読んでもらいました。そして、私が気に入っていたこの絵本は今、私が2歳の弟に読み聞かせています。

少し黄色くなって、傷がついて、鉛筆の落書きがあります。それほど今まで愛され、そしてこれからもわが家で愛されていく宝本です。

母



子

書名 からすのパンやさん  
著者名 かこさとし/文・絵  
出版社名 童心社

【エピソード】



昔、私が気に入っていた本で、よくねる時に、母に読んでもらった一冊です。からすが焼くパンを見て、いつも「おいしそう」と思っていて、おなかがすいてしまっただ変でした。

今でも大事にしている本なので、これからも大切にしていきたいと思います。

母



子

書名 ねずみくんのプレゼント  
著者名 なかえよしを/作  
上野紀子/絵  
出版社名 ポプラ社

【エピソード】



私がまだ小さい頃に、祖父母から一冊の絵本をもらいました。それがこの本です。もともと本を読むことが好きな私で、もらったらすぐに1ページ目を開きました。母に「これ、何て読むの。」と聞きながら、時間をかけてじっくりとページを進めました。私が一番好きな場面は、最後、風船がしぼんでしまった時に、中から手紙が出てくるところです。中学生になった今でも大切な本です。

私



姉

書名 ぶかぶかティッチ  
著者名 パット・ハッチンス/作・絵  
いしいももこ/訳  
出版社名 福音館書店

【エピソード】



私も姉も小学校低学年だった頃、通っていた児童クラブにこの本があり、毎日のように読んでいました。姉がクラブを卒業するとき、先生方が“特別に”この本をくださいました。ティッチが兄さんと姉さんから服をもらってもぶかぶかすぎて着られないというストーリーに二人で笑い、姉の服を私が着て、「大きくて着られないよ。」と本を真似して遊びました。

今では、身長も服のサイズも姉を追い抜きましたが、姉と背比べをしながら「前は、私の方が小さかったのね。」と、今でも思い出しては、笑っています。

私



友達

書名 ガール! ガール! ガールズ!  
著者名 宮下恵菜/作  
出版社名 ポプラ社

【エピソード】



この本は、友達に薦められて読んだ本です。主人公は、中学2年生の女の子で友人関係に悩みを抱えていました。そんな時、人間関係に悩んでいる女性と出会い、お互いの存在によって二人の心が強くなっていった話でした。私がこの本の中で好きな文章は、「今がだめでも、それがどうした。今だけが私のすべてじゃない。いろんな一瞬をつなげて、私は私の世界を生きるんだ。」というところです。私はこの本から、悩みがあっても、それは世界の中ではほんの小さなことなんだと学びました。もしこれから悩むことがあったとしても、前向きに考えていこうと思いました。

私



叔母

書名 つみきのいえ  
著者名 加藤久仁生/絵  
平田研也/文  
出版社名 白泉社

【エピソード】



この本は、私の叔母がプレゼントしてくれたものです。私は最初、この本のことを全く知らなくて「どんな本なんだろう。」と思いながら読んでみましたが、あまり深い意味が分からず「不思議な本だな。」と思って、終わってしまいました。でもなぜかその後、何度も何度も読むようになりました。月日が過ぎ、何度も読んでいるうちに、この本に込められた本当の意味が分かってきました。そうして私の宝本になりました。

姉



弟・母

書名 こやぎがめえめえ  
著者名 田島征三/作  
出版社名 福音館書店

【エピソード】



字を読めるようになったばかりの長女（当時3歳）が、いっしょうけんめいに「こやぎがめええ・・・。」と、弟（当時生後2か月）に読んであげていました。「めええ。」や「ぼろぼろ。」のところで、2か月の赤ちゃんだった弟がにこにここと笑うため、読んであげていた長女も嬉しくなり、何度も何度も読み聞かせていました。親としては、姉弟のほほえましい姿に嬉しくもあり、2か月の赤ちゃんが、言葉のひびき、絵本の楽しさ(?)を感じ、笑う・・・ということに驚きました。私たち家族にとっての、とっておきの一冊です。

母



子

書名 かいじゅうたちのいるところ  
著者名 モーリス・センダック/作  
じんぐうてるお/訳  
出版社名 富山房

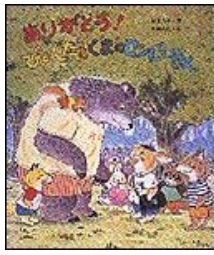
【エピソード】



この本は、ぼくがまだ2歳の頃、図書館でこの本を気に入って、何度も何度も借りていたので、ついには、お母さんに買ってもらった本です。今では、最後のページにお母さんからのメッセージが書いてあり、ぼくにとっては最高の宝本です。



母



子

書名 ありがとう! びよんとくまのロンじいさん

著者名 藤田良子/作  
末崎茂樹/絵

出版社名 金の星社

## 【エピソード】

「ありがとう!」から始まる書名に興味をもち、我が家の本棚へ仲間入りをさせてみました。まだ幼かった我が子には、内心「まだ早すぎるかな。」と思いつつ、時折、時間のある時に読み聞かせていました。案の定、少々長い物語にページをペラペラめくりだすこともありましたが、いつの間にか「これ読んで!」と持ってくるようになりました。楽しい様子から一変して嵐へと変化する内容にも息をのみ、真剣な眼差しで絵本を見つめる我が子の姿がそこにありました。読み終えたあとのホッとした子どもたちの表情が私は大好きです。

母



子

書名 ずーっとずっとだいすきだよ

著者名 ハンス・ウィルヘルム/絵・文  
久山太市/訳

出版社名 評論社

## 【エピソード】

子どもが4歳の時、子犬が生まれました。愛犬が妊娠、出産と母親になる瞬間を喜んだのもつかの間で、2年後に他界してしまいました。大好きな愛犬の死を、この絵本を通じて受け止められた事が今も印象深く心に残っています。愛犬も、もちろん家族。かわいがり、大切に育てていく心をはぐくんでくれた宝物の本です。

母



子

書名 ハッピーバースデー

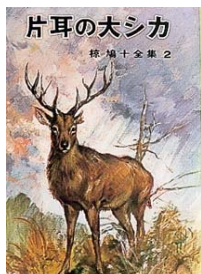
著者名 青木和雄, 吉富多美/作

出版社名 金の星社

## 【エピソード】

娘が、「お母さん、これ読んでみて。」と私に本を持ってくることがあります。この本は、その中の一冊で、母親から愛されていない娘と、娘を愛することができない母親が、祖父母や周囲の人々の影響を受けながら、お互いの心の距離を縮め、わかり合えるようになるという話です。何気ない言葉や態度で子どもたちを傷つけることがないように、いつも愛情をもって接していきたいと改めて感じた本です。

母



子

書名 片耳の大シカ 椋鳩十全集2

著者名 椋鳩十

出版社名 ポプラ社

## 【エピソード】

わたしとお母さんの宝本は、椋鳩十さんが書いた「片耳の大シカ」という本です。お母さんは、小学生のときにこの本に出会ったそうです。そして、私は3年生ぐらいのときから椋鳩十さんの本が好きで読んでいたので、この「片耳の大シカ」の本に出会っていました。親子で同じ本を読めるのは、素晴らしいことだなあと感じました。だから、この本はわたしとお母さんの宝本です。

母



子

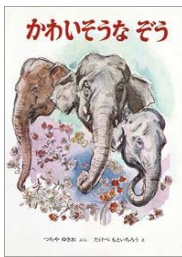
【エピソード】

子どもが小さい頃、図書館で見つけた一冊です。こびとがかわいらしくて、とても気に入りました。ものがたり絵本として、我が家が初めて購入した思い出の本です。“この本には、シリーズがある！”と知った時、家族みんなで喜んで、行事ごとに一冊ずつ購入していきました。六冊とも本棚になかよく並んでいます。

あれから15年……。子どもたちはすっかり大きくなりましたが、今でも行事こびとたちは、季節に合わせてページをめくられ、家族みんなをなつかしい気持ちにさせてくれます。こびとたちとの出会いに感謝しています。

書名 行事こびとのえほん  
こいのぼりこびとのおはなし  
著者名 まついのりこ/作  
出版社名 童心社

母



子

【エピソード】

この本は、ぼくが小さい時に近所の方からもらった本です。この本をお母さんが読んでくれた時、ぼくは泣いたそうです。せんそうの時の話で、動物園にばくだんがおとされて動物たちがにげだした時、きけんなのでころさないといけないという話です。

ぼくはときどきこの本を読みます。何回読んでも、なみだがでそうになります。

書名 かわいそうなぞう  
著者名 つちやゆきお/文  
たけべもといちろう/絵  
出版社名 金の星社

母



子

【エピソード】

娘が3歳の頃までは、とにかく仕事と子育てに追われ、本を読む機会がないぐらいに日々追われていました。娘が4歳になり少し落ち着いた頃、この本にめぐり会いました。娘がこの世に誕生した時、何とも言い難い尊い命を手にして、嬉しい気持ちになったことを思い出しました。そして今、自分が母親になれたことに感謝しました。

中学生に絵本を読む機会があり、これを選び「あなたが生まれた時、親はこの気持ちでいっぱいになったのよ。」と親への感謝の気持ちを改めて認識してほしいと思い読みました。胸がいっぱいになる一冊です。

書名 うまれてきてくれてありがとう  
著者名 にしもとよう/文  
黒井 健/絵  
出版社名 童心社

母



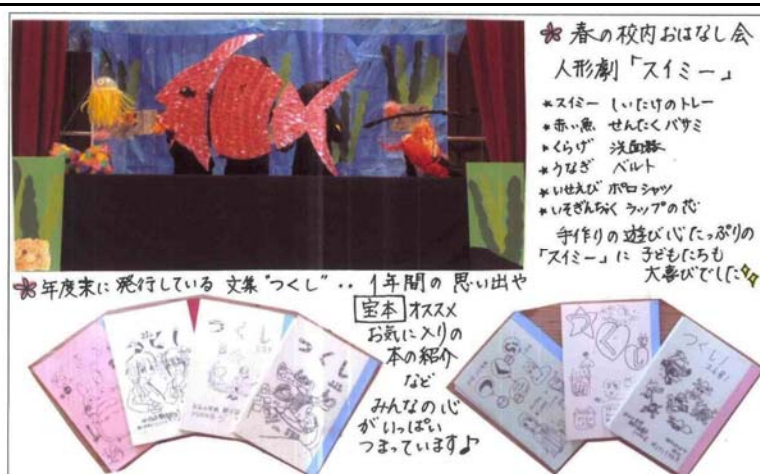
子

【エピソード】

小さいころ、お母さんに何回も読んでもらった本です。この本を読んでもらうたびに「ホットケーキが食べたい。」と言って、お母さんといっしょに作ったのを覚えています。「ぼたあん だろだろ びちびちびち」のページが大好きで、何度も何度もくりかえし読んでもらっていました。今でも読むと、小さい時を思い出して、楽しい気持ちになる一冊です。

書名 しろくまちゃんのほっとけーき  
著者名 わかやまけん  
出版社名 こぐま社

(団体取組の部より)



谷山小学校親子読書トトロの会は、今年度創立50周年（トトロの会と名づけて10周年）という節目の年を迎えました。私たちは、毎年、春と秋に校内おはなし会を開催しています。記念すべき今年度は、みんなが大好きな絵本「スイミー」を人形劇で演じました。人形などを身近にあるもので、全て手作りしました。絵本を通じて“親子がつながり”，絵本をとおして“仲間ができて”，絵本をとおして“笑顔の輪が広がる。”そういう活動をメンバーみんなできていることを幸せに思います。おはなしの世界を、谷山小学校の子どもたち楽しんでもらえるという喜びも味わっています。2学期の秋のおはなし会も、今からとても楽しみです。

年度末に発行している文集「つくし」には、それぞれの宝本を紹介するページがあります。

市町村 鹿児島市 所属名 谷山小学校 親子読書 トトロの会



西伊敷小学校では、月に一回親子読書の方々と昼休みにおはなし会を開いています。ペープサートや人形劇など、普段見る機会が少ないので、子どもたちも楽しみにしています。

また、夏休みの取組として昨年「親子で一緒に読書を！」と、宝本エピソードを募集しています。どの家庭にも思い出の本があり、「この機会に一冊増えました。」と、うれしい反響もありました。これからも続けたいと思います。

市町村 鹿児島市 所属名 西伊敷小学校





宝本の取組として、祖父母と密接な家庭環境にある子が多い点や昨今の多様な家族構成のことを考え、例題や紹介にあえて親を登場させない独自の宝本記入用紙を作りました。宝本運動の紹介は、家庭学級でも行い、それぞれに思い出の本を語ってもらいました。本にまつわる記憶をたどる旅を集まった人たちと共有することで、会場の雰囲気も和やかなものとなり、子どもたちにも是非この楽しさを味わって欲しいとの声があがりました。

今年は、夏休みの冊子に宝本記入用紙を綴じ込み、持ってきた子どもに学校図書室独自の認定証を配布しました。これからもたくさんの宝本をもってもらえるように続けていきたいと思えます。

市町村 始良市 所属名 三船小学校図書室



伊津部小学校では、PTAの読書委員会を中心に、様々な読書活動をとおして、心豊かな子どもの育成に力を入れています。

主な取組としては、毎週月曜日、各学年や各学級ごとに朝の読み聞かせを行っています。また、毎年、7月は「夏のおはなし会」、11月は「校内読書まつり」、3月は「春のおはなし会」を実施しています。今年も、7月の「夏のおはなし会」では、紙しばいやパネルシアターなどをした後、皆それぞれ願い事を書き、七夕かざりを作りました。今後も、親子で楽しく読書したり、語ったりするきっかけづくりができるような取組をしていきたいと思えます。

市町村 奄美市 所属名 伊津部小PTA読書委員会



円小学校のPTAでは、毎週日曜日に子どもと親が一緒に読書を行う「家族読書」を行っています。家族読書記録カードの上には、印象に残ったところを絵に描き、下には子どもの感想と保護者の感想をそれぞれ書くという取組です。

「家族読書」は、昭和36年から今まで継続して行われており、年度末には各家庭での取組内容や子どもたちの様子、わが家のおすすめの一冊を紹介するなど取組のまとめとして「家族読書新聞」を作成しています。

市町村 龍郷町 所属名 円小学校